

関係各位

公益社団法人「好善社」代表理事 三吉信彦

主の御名を崇めます。

いつも私たち好善社の活動にご理解とご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、私たちはこの夏も「タイ国青少年ワークキャンプ」を実施いたします。この企画にご賛同いただき関係の高校生、大学生をぜひご紹介いただきたく、ご案内申し上げます。

好善社は、これまでハンセン病を病んだ方々やその療養所と関わってきました。創立以来 120 年の間に、専門療養病院「慰廃園」の運営、「長島聖書学舎」の支援、各療養所教会に会堂を寄贈し、牧師を派遣し、またワークキャンプを実施して参りましたことは、ご承知のことと存じます。

1980 年代以降、タイ国のキリスト教ハンセン病患者支援団体「チャンタミット社」の設立、運営を側面から支援してきました。今は療養所内の子どもたちに奨学金を送る事業にも関わっています。当社の社員、阿部春代看護師はタイでセルフケアクリニックの支援活動を展開、今年で 29 年目を迎えます。

そして 2005 年には、タイ国青少年ワークキャンプの企画を立ちあげました。タイ国ハンセン病コロニーで育った青少年たちと日本の若者とが寝食を共に汗を流して、コロニーの人々が必要とする施設整備等を行って、今回で 15 回目を迎えます。こういうプログラムを通して、両国の青少年がハンセン病についての学びを深めて参りました。そして参加した日本の青少年は、タイの農村部の豊かな自然、タイ人少年少女の明るさ、素直さ、くたくなさに心を開き、激しい労働にも目を輝かせて取り組む。ワーク前とは見違えるように変わって行くのが分かります。リピーターが多いのも、このワークが若者の心を捉えている証拠だと思います。今日、こういうプログラムが教会や学校など、青少年教育に必要であることを痛感している次第です。

タイ国在住の田中孝明さんがワークキャンプに参加し、その後神学校で学び、現在はチェンマイのミッションスクールで働いています。彼は毎回のワークキャンプで通訳を務めていてくれます。

また、かつて日本で学んだエカウィットさんが、帰国したのち結婚、夫婦共に神学校で学び、牧師を目指しています。彼は昨年のワークキャンプに一家で参加し、近い将来ぜひ日本で伝道したいと語っていました。

このようにワークキャンプを通して、日・タイ青年たちが互いの国の言葉や文化を学び、相互の文化交流に役立ってくれていることを、本当にうれしく思っています。

今年のワークキャンプは、東部のスリン県にあるプラサート村で、かつてワークを実施したことのある村です。今回のワークは前回同様、村の道路のコンクリート舗装です。

以上、簡単にワークキャンプの趣旨を記しました。どうか、この企画にご賛同いただき、ぜひ関係の青少年に呼びかけていただきたく、お願い申し上げます。不明な点は、ご遠慮なく下記までお問い合わせ下さい。よろしくお願い申し上げます。

主にありて

渡辺圭一郎宛 TEL072-860-3019 Fax072-853-1604 メールアドレス kei16w@gmail.com

2019 年 5 月 15 日